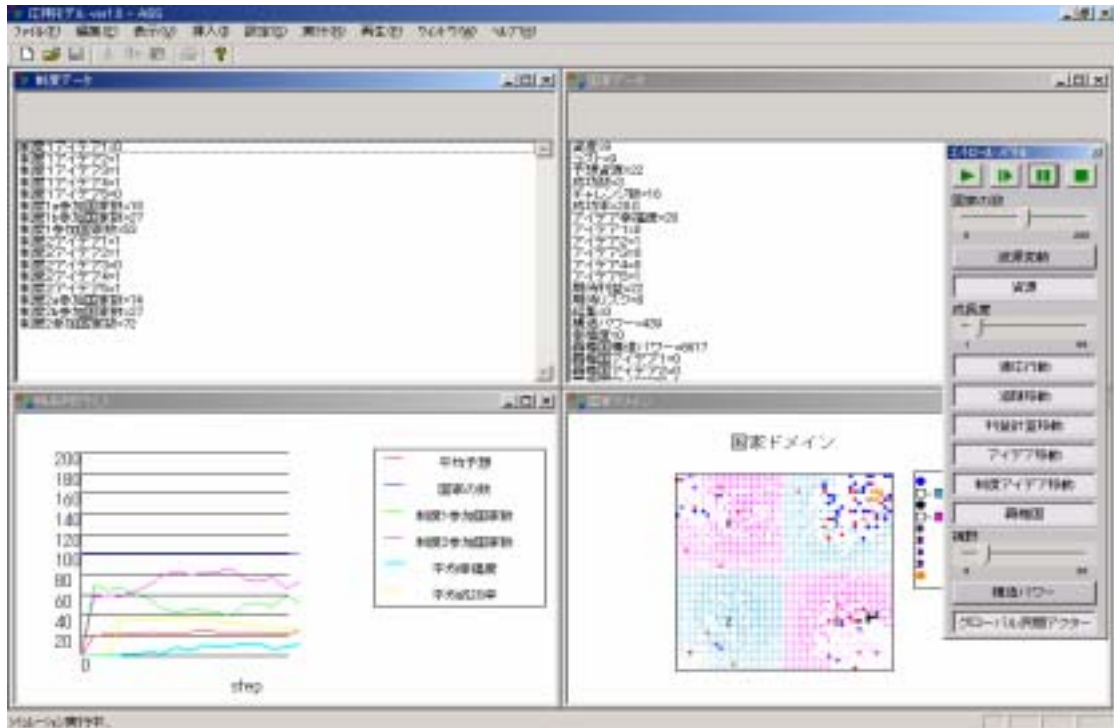


「国際金融規制の政治経済学 - マルチエージェントシミュレーションによる分析」アブストラクト

金融取引におけるグローバルコンペティションの到来により、国内アクターが同時にグローバル・アクターなるという現象が起こった。故に、各国規制当局が規制していたルールとグローバルな規制ルールの整合性をとるために、金融規制は必然的にグローバルなものへと進化する必要が出てきた。この現象を本研究では、「金融規制のグローバリゼーション」と定義する。本研究の目的は、資本市場の国際的な「金融規制のグローバリゼーション」のプロセスに焦点を当て、グローバルな規制成立のメカニズムを明らかにして、政策的なインプリケーションを得ることである。分析は以下のような手順で行う。はじめに、個々のエージェントの持つ「アイデア」が主観的な「期待」を決定し、「期待」によって利益の計算がなされ、行動が決定されるとの仮定を置いたモデルを構築して、制度形成にあたって、主観的な「期待」が大きな意味を持つことを再現する。次に、モデルを拡張し、覇権国と民間機関の制度形成における役割を再現する。最後に、これらのモデルの分析結果で得られた知見をもとに、BIS 規制と IAS との形成過程の簡単な事例研究を行う。本研究の特徴は MAS に「アイデア」という定性的な概念をシミュレーションに取り込んだことにある。

本研究の結論は、制度形成にあたっては、知識構造の持つパワーが重要な役割を果たす、エージェントの「適応行動」による「学習」が重要な役割を果たす、というものである。シミュレーションでは、3つのモデルに共通して、適応行動ルールが有るときの方が、エージェントの幸福度が高いという結果が得られた。制度形成にあたって、「適応行動」が大きな役割を果たすということがシミュレーションで再現された。



シミュレーション画面